

OFFICIAL MATCH DAY PROGRAM

発行: 関西学生サッカー連盟
2012年7月10日発行



第36回 総理大臣杯
全日本大学サッカートーナメント
2012年7月10日(日) 2回戦



PHOTO 飯島玲子

第36回 総理大臣杯 全日本大学サッカートーナメント 2回戦

2012年度 第36回 総理大臣杯 全日本大学サッカートーナメント
(PRIME MINISTER CUP 2012)

【会場】
大阪長居スタジアム
キンチョウスタジアム
大阪長居第2陸上競技場
J-GREEN堺



大阪長居スタジアム

18:00

7/16(月・祝)

キンチョウスタジアム

18:00

キンチョウスタジアム

15:30

7/14(土)

長居第2

18:00

長居第2

15:30

J-GREEN堺

15:30

J-GREEN堺

18:00

7/12(木)

長居スタジアム

18:00

長居スタジアム

15:30

長居第2

15:30

長居第2

18:00

キンチョウ

18:00

キンチョウ

15:30

J-GREEN堺

15:30

J-GREEN堺

18:00

7/10(火)

3 1

2 2

5 PK 4

7 0

0 4

4 0

0 2

2 0

1 7

4 0

3 0

3 2

1 4

5 1

1 2

0 1

2 5

7/8(日)

早大

修大

静大

仙大

中央大

岩教大

福教大

大体大

福岡大

新福大

平国大

阪南大

青学大

姫大

愛媛大

東国大

関西大

富士大

専修大

日経大

中京大

関学大

北陸大

国士大

関東1 中国2 東海3 東北1 関東4 北海道1 九州4 関西2 九州1 北信越2 関東8 関西3 関東6 関西6 四国2 東海1 関西1 東北2 関東7 九州2 東海2 関西5 北信越1 関東3 四国1 東海4 九州3 関東5 関西4 中国1 北海道2 関東2

※何らかの理由により、決勝戦が7月16日(月・祝)に行えなかった場合、7月17日(火)に同会場、同時間で行う予定です。

静岡大学 VS 仙台大学

1回戦中唯一、PK戦で勝負がついたゲーム。「粘り強い守り」をバックボーンに「彼が得点を取ってくれないとウチは勝てない」というエースFW10、谷尾隆博が2点を取って、PK戦に持ち込んだ末の静岡大の1回戦突破だった。先手を取ったのは静岡大。20分、数少ないチャンスだった右CK、仙台大DFがクリアしたが、幸運にもゴール前の谷尾の前に転がり、躊躇なく谷尾が蹴りこんだ。先行されて仙台大攻撃陣が眠りから覚めた。4-3-3のトップと2列目が激しいポジションチェンジを交え、サイド攻撃あるいは中央からと静岡大を追い込み始めた。粘り強さと数的優位を常に念頭にプレーする静岡大だったが、仙台大の華麗なパスワークの切れ味は東北1位の実績で実証済み。30分、速い展開からチャンスを生み出した仙台大は、11、杉田祐希也のクロスがMF10、熊谷達也につながって同点。後半開始直後の48分には、再び右の黒田のクロスを今度はFW9、蓮沼達也が叩き込んで勝ち越した。このあたり圧倒的に仙台大のペースで、中盤の優位をどこまで得点に結びつけるのか、に興味が集まったほど。ところが65分過ぎあたりから仙台大攻撃陣の動きが鈍くなり、80分、静岡大のエースFW10、谷尾隆博に同点打を決められた。前半から多くのシュートを浴びせ続けた仙台大が同点にされる前後からシュートもなく、不本意な戦いになってしまった。

(文：関西学連)

静岡大 2 - 2 仙台大
PK
5 - 4

■7月8日(日) 12:30 KICK OFF

於：J-GREEN堺・S6フィールド

◆得点(アシスト)

静岡大 20分 10 谷尾 隆博 (14 鈴木 輔)
仙台大 30分 10 熊谷 達也 (11 杉田 祐希也)
仙台大 48分 9 蓮沼 翔太 (7 鳥山 祥之)
静岡大 80分 10 谷尾 隆博 (2 横田 真樹)

早稲田大学 VS 広島修道大学

早大 3 - 1 修道大

■7月8日(日) 15:00 KICK OFF

於：J-GREEN堺・S6フィールド

◆得点(アシスト)

早大 45+1分 8 近藤 貴司 (4 畑尾 大翔)
早大 49分 10 富山 貴光
早大 60分 10 富山 貴光 (6 三竿 雄斗)
修道大 79分 横井 恵一

早大の攻撃が単調に見えるほど、修道大の攻守は互角に早大に対抗した。「そう変わったことはしてこない。オーソドックスに攻めてくるはず」だから「忠実な守りを軸に、ボールを奪ったらカウンターで」(修道大・中川慎監督)早大が苦しんだのは、この修道大の粘り強い忠実な守備。左右、中央、あるいはチェンジオブペース、ロング、ショートとパスにも変化を加えて修道大を攻め立て、ポゼッションでは圧倒しながら、生きるシュートにつなぐことが出来なかった。早大が愁眉を開き、修道大が悔やんだのが、前半アディショナルタイムでの早大の先制点。DFラインのDF4、畑尾大翔からのロングボール1本。MF8、近藤貴司が取ってドリブル、そのままゴールに叩き込んだ。この先制点は、後半の早大の動きの活性油になった。パスのつながり、展開もスムーズになり修道大を後手に追い込んだ。後半早々に早稲田大はFW10、富山貴光がPKを決め、さらに60分、中央から左へパスを展開し、富山が3点目をもぎ取って完全に優位に立った。

修道大は「悔やむ」先制を与えたあと、忠実な守りは実践したが、受ける場面が多くなって早大に追加点を許す展開になってしまった。それでも随所に攻撃サッカーの片鱗をちらつかせ、エースのFW38、横井恵一が79分に1点を返して一矢を報いた。

(文：関西学連)

中央大学 VS 北海道教育大学岩見沢校

前年準優勝の中央大が、主将のFW11、奥山慎(4年)のハットトリックなどで7得点を奪って圧勝、2回戦に駒を進めた。

キックオフ直後、攻勢に出たのは岩教大。同校の越山賢一監督は中央大との対戦に「5、6失点する可能性もある」と力関係を認めた上で「守ってカウンターという戦いはしない。つなぐサッカーで臨む」と、自分たちのスタイルを貫くことを明言。選手も果敢に挑み、素早いパス交換からゴールに迫った。しかし、中央大は攻め込まれながらも、決定機は作らせない。徐々に反撃に転じ、21分にFW19、砂川優太郎(2年)がペナルティーエリア内で倒されて得たPKを自ら決めて先制、流れを引き寄せた。24分、38分には奥山が連続ゴール。後半は途中出場のFW29、木村陽一郎(3年)、FW14、澤田崇(3年)も得点し、試合終了間際にはMF7、六平光成(4年)のスルーパスに反応した奥山が自身3点目を挙げ、ハットトリックを達成した。

「立ち上がりはちょっとドタバタしてしまったが、落ち着いて力を出せば結果は付いてくる」と中央大の白須真介監督。真つ向勝負を挑んだ岩教大を力でねじ伏せた。

(文：読売新聞大阪運動部 藤田真則)

中央大 7 - 0 岩教大

■7月8日(日) 12:30 KICK OFF

於：J-GREEN堺・S13フィールド

◆得点(アシスト)

中央大 21分 19 砂川 優太郎
中央大 24分 11 奥山 慎 (18 皆川 佑介)
中央大 38分 11 奥山 慎 (5 安田 隆)
中央大 67分 29 木村 陽一郎 (14 澤田 崇)
中央大 74分 14 澤田 崇
中央大 81分 29 木村 陽一郎 (25 渋谷 亮)
中央大 90+2分 11 奥山 慎 (7 六平 光成)

第36回 総理大臣杯 全日本大学サッカートーナメント 2012年7月8日(日) 1回戦



福岡教育大学 VS 大阪体育大学

前年覇者の大体大に、10年ぶりの出場を果たした福教大が挑んだ一戦は序盤から試合が動いた。

開始早々、まずは福教大が左コーナーキックのチャンスを得る。キッカーは特別指定選手としてJ2のギラヴァンツ北九州でプレーするMF10、中原秀人(4年)。しかし、得点につながらない。直後に攻守が入れ替わると、大体大のFW9、伊佐耕平(3年)が福教大の守備の乱れを突いてボールを拾い、先制点を奪った。「できれば残り15分ぐらいで勝負したかった」という福教大の山城朋大監督のゲームプランがこれで大きく狂った。一方、大体大は、この1点で攻撃陣が活発化。11分にはFW10、澤上竜二(1年)が追加点。

福教大は後半、再び中原を起点に攻撃を組み立てるが、大体大のセンターバック4、濱上孝次(4年)を中心とした堅守を崩しきれず、逆に失点を重ねて勝負は決まった。

「ラッキーな形で先制できたが、試合内容としては出来が悪かった」とは、大体大の坂本康博総監督の弁。それでも、FW陣がゴールして、守備陣が完封したことは、大会連覇に向けて好発進したことに間違いはない。

(文：読売新聞大阪運動部 藤田真則)

福教大 0 - 4 大体大

■7月8日(日) 15:00 KICK OFF

於：J-GREEN堺・S13フィールド

◆得点(アシスト)

大体大 2分 9 伊佐 耕平

大体大 11分 10 澤上 竜二 (11 田上 勇輝)

大体大 73分 11 田上 勇輝

大体大 85分 10 澤上 竜二

平成国際大学 VS 阪南大学

平国大 0 - 2 阪南大

■7月8日(日) 12:30 KICK OFF

於：J-GREEN堺・S9フィールド

◆得点(アシスト)

阪南大 85分 22 工藤 光輝 (13 河田 篤秀)

阪南大 89分 13 河田 篤秀

全国大会常連校の阪南大(関西第3代表)と初出場の平国大(関東第8代表)との対戦。序盤の15分間で阪南大はMF9、可児壮隆とFW11、泉澤仁を中心に両サイドで起点をつくり出し、猛攻を仕掛けて平国大を圧倒。決定的な場面を幾度もつくりだすが、平国大の守備陣が体を投げ出して阻止し続けた。立ち上がりの猛攻に耐え続けた平国大も若干プレッシャーが緩み始めた阪南大に対し、MF6、荻原健太にボールを集めてカウンターを見せ始めるが、強固な阪南大の守備陣が最終ラインの突破を許さない。

後半、シュート数が上がらない阪南大は58分にFW22、工藤光輝を、さらに65分にFW13、河田篤秀を投入。スピードのある泉澤を左サイドに置いて再び流れを掴むが平国大が前半同様に粘り強くゴールを守った。77分、平国大にこの試合一番のチャンスが訪れる。右サイドを切り崩してゴールエリア中央手前でパスを受けた荻原がフリーでシュートを放つ。これを公式戦初スタメンの阪南大1年生GK41、大西将が左足1本で阻止。このプレーが両チームの明暗を分けたといっても過言ではない。優勢に試合を進めながらも得点できなかった阪南大は81分にMF12、谷本を投入して勢いを高めると、85分に右サイドで可児からの縦パスを受けた河田のクロスボールをニアに飛び込んだ工藤が待望の先制点を挙げる。さらに89分、クリアボールに反応した河田が体を投げ出して追加点を奪い、粘る平国大を振り切って2回戦に駒を進めた。

(文：関西学連 中野尊志)

福岡大学 VS 新潟医療福祉大学

福岡大 4 - 0 新福大

■7月8日(日) 15:00 KICK OFF

於：J-GREEN堺・S9フィールド

◆得点(アシスト)

福岡大 24分 20 岸田 和人

福岡大 40分 20 岸田 和人 (7 田中 智大)

福岡大 63分 7 田中 智大 (8 清武 功暉)

福岡大 69分 14 岸田 翔平 (19 田村 友)

本大会29回目の最多出場を誇る福岡大(九州第1代表)と初出場の新福大(北信越第2代表)との対戦。福岡大は立ち上がりから伝統の堅守速攻で新福大を圧倒する。高い位置からプレッシャーをかけてボールを奪っては前線に素早くつなぎ、あっという間にゴールへ迫る豪快な試合展開は観戦する者を魅了した。24分、右サイドから送られた8、清武功暉のボールを7、田中智大が胸で合わせてシュート。ポストに当たってこぼれたボールを20、岸田和人が押し込んで先制点を挙げると、手を緩めない福岡大は40分にも田中からの縦パスをDF背後で受け取った岸田が2得点目を上げてリードを広げた。

後半開始から福岡大は岸田と15、平田拳一郎に代えて10、稲葉修土と18、増田忠紘を投入。田中をワントップに起用して、ハーフコートプレスに切り替える。選手交代とポジションチェンジによって、しばらく動きが噛み合わない場面を見せたが、ベンチからの指示もあって徐々に修正。63分、奪ったボールを右サイドへ抜け出て受けた田中が清武との壁パスから3点目を挙げる。この得点によって清武を温存した福岡大は、69分に19、田村友からの縦パスを14、岸田翔平が4点目となるゴールを決め、さらに差を広げる。87分にはGK1、大森圭悟を投入し、選手交代枠をフルに活用。2回戦以降の闘いを見据えて、ゆとりのある試合運びを見せた。

(文：中野尊志)

青山学院大学 V S 姫路獨協大学

青学大は、組織的な守備から一対一でしっかりとボールを奪い、細かいパスから個人のドリブルでシュートからの得点を狙い、姫獨大は全体をコンパクトに保った守備から、カウンターで相手サイドの裏のスペースを有効に使うことからの得点を狙った。姫獨大は相手ゴールに迫るが決めきれないことが続いた。また、ゴールに迫る回数は姫獨大に劣るが決定的な形では勝る青学大は相手GKの好セーブとオフサイド判定で得点を奪えなかった。

そんな状況の中、87分、青学大左サイドバックの6, 藪裕史朗がペナルティエリア内でドリブルを仕掛け、そのままシュート、得点となった。その後、姫獨大はサイドからゴール前にクロスを入れて得点を狙うが惜しくもゴールマウスを捉えられず、疎かになった守備をつかれ青学大に追加点を許した。接戦となったが、最後は個人の技術の差が勝負を分けることとなった。

(文：関西学連広報委員)

青学大 2 - 0 姫獨大

■7月8日(日) 12:30 KICK OFF

於：J-GREEN堺・S11フィールド

◆得点(アシスト)

青学大 87分 6 藪 裕史朗

青学大 90+2分 11 武富 尚紀 (6 藪 裕史朗)

愛媛大学 V S 東海学園大学

愛媛大 1 - 7 東園大

■7月8日(日) 15:00 KICK OFF

於：J-GREEN堺・S11フィールド

◆得点(アシスト)

東園大 11分 20 奥村 駿 (4 杉野 健斗)

東園大 36分 11 筑後 潤平 (13 中西 健人)

愛媛大 38分 10 続木 崇浩

東園大 67分 22 芳村 光規 (11 筑後 潤平)

東園大 69分 11 筑後 潤平 (6 中村 剣史郎)

東園大 78分 8 正治 崇寧 (9 嶋中 博輝)

東園大 88分 10 安藤 武蔵 (3 安藤 駿治)

東園大 90分 12 安楽 健太 (22 芳村 光規・9 嶋中 博輝)

相手ディフェンスの裏のスペースに素早くボールを入れて得点を狙う愛媛大と、相手ゴール前に素早くボールを入れ、そこからの細かいパス回しで得点を狙う東園大の試合。

試合開始直後の2分、東園大は、安藤駿治のコーナーキックからゴール前で、杉野健斗がヘディングで折り返し、これを20, 奥村駿がシュート、先制点を奪った。その後の36分、東園大のパス回しから13, 中西健人が左サイドでドリブルを仕掛けて、11, 筑後潤平にパスをして筑後がシュートに追加点を奪った。その直後の38分、愛媛大は相手ディフェンスラインの裏でうまくボールを受けた選手が倒されて得たPKを10, 続木崇浩がしっかりと決めて1点を返した。

後半開始直後から、東園大が追加点をねらい、積極的な前線からの守備を仕掛けてボールを奪いパスをつないで愛媛大ゴールに迫ったが、愛媛大は、村瀬達也の好セーブで阻まれ、なかなか追加点を奪えなかった。しかし67分にペナルティエリア付近中央の11, 筑後潤平からのパスを22, 芳村光規がシュート、得点となった。その後は、東海学園大が終始ボールをキープし、そこから得点を重ねた。

前半は見応えのある接戦だったが、結果的には技術、体力に勝る東園大が大勝した試合だった。

(文：関西学連広報委員)

専修大学 V S 日本経済大学

昨年度大会の参加枠は関東5、九州1。参加チーム数が32と倍増した恩恵で、関東第7代表と九州第2代表の対戦が実現した。ともに初出場だが、昨年度全日本大学選手権の王者である専修大に日経大が挑戦する一戦。

先にシュートを放ったのは、日経大だったが、徐々にボールキープに優る専修大が主導権を握っていく。そして10分、相手の寄せが遅いところを突きMF8, 下田北斗の豪快な左足ミドルシュートが日経大ゴールに突き刺さる。「前半なんとか0-0で」という日経大・久保山監督のゲームプランは崩れた。その後DF5, 栗山直樹の負傷退場というアクシデントのあった専修大だが、29, 本名正太郎が1列下がって対応する。そして40分には、下田のパスからMF7, 長澤和輝が決めて2点差をつける。

後半開始から3人(交代枠はFP4、GK1人迄)を一度に代えた日経大は、MF10, 野村直輝を中心にパスをつなぎ、前半に比べ前線へ飛び出す人数も増えるが、なかなかシュートにまで持ち込めない。一方専修大も多彩な攻めでチャンスは作るものの、細かなミスも出て日経大DFの身体を張った守備を崩せない。それでも88分に長澤がFKを直接決めてダメを押して試合を決めた。

(文：サッカーライター 貞永晃二)

専修大 3 - 0 日経大

■7月8日(日) 12:30 KICK OFF

於：J-GREEN堺・S8フィールド

◆得点(アシスト)

専修大 10分 8 下田 北斗 (29 本名 正太郎)

専修大 40分 7 長澤 和輝 (8 下田 北斗)

専修大 88分 7 長澤 和輝

第36回 総理大臣杯 全日本大学サッカートーナメント 2012年7月8日(日) 1回戦



関西大学 VS 富士大学

関西選手権を制し優勝候補にも挙がる関西大だが、再開したリーグ戦では2分1敗と順位も4位に下げ、立ち直りを見せたいところ。一方、「守り切れるチームではないから、攻めたい」と高鷹監督が言う富士大(岩手県)は、8年ぶりの出場。

キックオフからDFラインを高く維持し、前線から激しくプレスをかける富士大。しかし、技術に優る関西大は攻め急がずにボールを回す。そして20分、FW17, 奥田勇太のシュートがDFに当たりコースが変わって決まり先制。さらに37分、負傷から復帰初戦となるMF7, 岡崎建哉が左サイドからGKの位置を見極めた鮮やかなループシュートで2-0と関西大が差を広げる。その後DF3, 都並優太の幻のゴールもあり前半を終える。

後半序盤は一進一退の展開も、57分に関西大は、右サイドを基点に最後FW20, 海田佳祐がフリーで流し込み3-0とし試合の趨勢を決めた。前半に比べ相手ボックスに近づきチャンスの数を増やした富士大だが、後半9本のシュートも決め切れず1点が遠い。70分に関西大FW10, 安藤大介に決められついに4-0。高鷹監督は「ビデオで見るより試合巧者だった。この経験を天皇杯予選に活かす」と前を向いた。

(文: サッカーライター 貞永晃二)

関西大 4-0 富士大

■7月8日(日) 15:00 KICK OFF

於: J-GREEN堺・S8フィールド

◆得点(アシスト)

関西大 20分 17 奥田 勇太

関西大 37分 7 岡崎 建哉 (8 和田 篤紀)

関西大 57分 20 海田 圭祐 (17 奥田 勇太)

関西大 70分 10 安藤 大介 (14 保井 隆志)

中京大学 VS 関西学院大学

中京大 3-2 関学大

■7月8日(日) 12:30 KICK OFF

於: J-GREEN堺・S10フィールド

◆得点(アシスト)

中京大 20分 5 飯沼 壮貴

関学大 39分 26 小林 成豪 (9 浅香 健太郎)

関学大 47分 オウンゴール

中京大 64分 4 畑 直樹 (11 牧野 修造)

中京大 68分 3 新里 亮 (10 佐藤 和弘)

中京大が逆転勝利を収め、2年ぶりに初戦を突破した。

どちらも3年生以下が多いチーム同士の対戦は、点の取り合いとなった。立ち上がりに押し込んだ中京大が20分に先制するも、徐々にペースをつかんだ関学大が39分に追いつく。ハーフタイムに成山一郎監督に「お前の方が強いから前に前に行け」と指示を受けた関学大イレブン後半開始直後の47分にFKからのオウンゴールで逆転すると、勢いそのままに持ち前の前線からのプレスで中京大ゴールに迫った。しかし、「ゲームを決める1点が取れず、だんだん迫力が無くなった」(成山監督)。再び中京大が相手陣内でボールを回し始め、64分に同点に追いつくと、4分後の68分に「想定通りだった」(中京大・朝倉吉彦監督)セットプレーからDF3, 新里亮(4年)が値千金の決勝弾。その後1点差を守り切った中京大が2回戦に駒を進めた。

接戦を制した中京大だが、朝倉監督は「うちは全体的にパフォーマンスが低かった。相手どうこうではなく、100%の力を発揮できた選手が少なかった」と内容には不満げだった。「自分たちで解決できることも多かった。修正しないといけない」。中1日でどこまで雰囲気を作れるかが、2年前決勝で逃したチャンピオンの座を奪えるかどうかの鍵となりそうだ。

(文: 関学スポーツ 和氣 大輔)

北陸大学 VS 国士舘大学

北陸大 1-4 国士大

■7月8日(日) 15:00 KICK OFF

於: J-GREEN堺・S10フィールド

◆得点(アシスト)

北陸大 4分 22 沖田 良真

国士大 10分 14 進藤 誠司 (10 金子 昌広)

国士大 18分 14 進藤 誠司

国士大 27分 10 金子 昌広

国士大 66分 18 福田 真也 (14 進藤 誠司)

13年ぶり3度目の優勝を狙う国士大が2分、ゴールのやや左の約20mの直接FK。主将のMF7, 佐藤優平(4年)が右足で直接狙うと、惜しくも左ポストを直撃。その直後、3年ぶり2回目の出場で、初勝利をと意気込む北陸大はCKからあっさり先制し、序盤のペースをつかんだ。

高い位置でボールを奪う意図を見せる北陸大に対し、国士大も一次攻撃後のセカンドボールを徐々に拾えるようになり、攻めに落ち着きが出てきた。そして10分、MF14, 進藤誠司(2年)が左45度付近から豪快な同点弾。その後も国士大はゼロトップ気味の攻撃陣がペナルティエリア付近でボールを回し、見せ場を何度か作った。18分には、MF18, 福田真也(2年)が左サイドを切り裂き、ラストパスを受けた進藤が左隅に低いシュートを突き刺し、逆転に成功した。さらに28分、国士大が相手DFの裏に走り込んだMF10, 金子昌広(4年)が浮き球のパスを受け、GKも抜き去ってゴールに3点目を流し込んだ。

後半も立ち上がりは国士大ペース。66分、中盤で相手ボールを奪い、最後は福田がGKも抜いて、試合を決めるゴールを奪った。終盤、北陸大も惜しい場面を何度か作り出したが、ゴールには結びつかず、1-4のまま試合終了となった。後半は暑さが増す中で、国士大のうまい試合運びが目についた。

国士大の細田三二監督は「点は取れるという自信があっただけに、先制されて“これはまずい”と目が覚めたのだろう。逆転してから、動きが鈍くなるなど、反省材料も多かった」と気を引き締めていた。

(文: 関西学連 荒木 茂)

鹿屋体育大学VS駒澤大学

2年ぶり9回目の出場となる九州第3代表の鹿体大と2010年度(第34回大会)の大会で優勝した関東第5代表の駒澤大の1戦。

先制点は鹿体大。15分にFW12, 中尾優作から最後はMF10, 小谷健悟が決めて先制する。対する駒澤大は38分、MF10, 湯澤洋介からのパスを受けたMF9, 山本大貴が決めて同点。両者譲らず前半は1-1で折り返す。

64分に駒澤大DF16, 大木暁がこの日2枚目のイエローカードをもらい退場となり守備的に戦うことを余儀なくされてしまう。数的有利になった鹿体大がボールを保持する時間が増えてくるが何とか駒澤大が体をはって守る。そして89分。DF3, 田中雄一のCKからMF6, 若山瞭太がヘディングを決めて逆転に成功。数的不利からの逆境を跳ね返し駒澤大が勝利を収めた。

(文: 関西学連 幹事)

鹿体大 1-2 駒澤大

■7月8日(日) 12:30 KICK OFF

於: J-GREEN堺・S12フィールド

◆得点(アシスト)

鹿体大 15分 10 小谷 健悟 (12 中尾 優作)
駒澤大 38分 9 山本 大貴 (10 湯澤 洋介)
駒澤大 89分 6 若山 瞭太 (3 田中 雄一)

高知大学VS岐阜経済大学

高知大 5-1 岐経大

■7月8日(日) 15:00 KICK OFF

於: J-GREEN堺・S12フィールド

◆得点(アシスト)

岐経大 32分 14 勝野 賢人
高知大 44分 8 渡部 亮武
高知大 50分 4 山部 晃 (13 原田 亮)
高知大 62分 18 植木 二郎
高知大 85分 9 福本 圭 (13 原田 亮)
高知大 88分 9 福本 圭 (14 塚本 諒)

12年連続22回目の出場となる四国第1代表の高知大と初出場となる東海第4代表の岐経大。

前半は両チームビッグチャンスが生まれないままセットプレーから試合が動く。32分にFKを岐経大のMF14, 勝野賢人が直接決めた。前半唯一のシュートで岐経大が先制点を奪う。先制を許した高知大だったが44分にこちらでもFKをMF8, 渡部亮武がお返しとばかりに直接決めて前半を1-1で折り返した。

50分には高知大がCKからDF4, 山部晃が決めて逆転に成功する。62分にはMF18, 植木二郎が決めて点差を広げる。反撃をしたい岐経大だったが66分に退場者を出し数的不利にもなりなかなか攻め手が出来ない。85分、88分に交代出場の高知大FW9, 福本圭が得点を挙げ、試合を通して岐経大のシュートを2本に抑えた高知大が快勝し2回戦へと駒を進めた。

(文: 関西学連 幹事)

びわこ成蹊スポーツ大学VSIPU・環太平洋大学

びわこ 0-1 IPU

■7月8日(日) 12:30 KICK OFF

於: J-GREEN堺・S7フィールド

◆得点(アシスト)

IPU 90分 11 長尾 善公 (13 片桐 瑞貴)

0-0でPK戦突入かと思われたところで、IPUがゴールを奪った。

ロスタイム3分の掲示がされた直後のことだった。MF13, 片桐瑞貴(3年)のパスに反応したFW11, 長尾善公(2年)が、落ち着いて左足でネットを揺らした。「ワンチャンスは必ず来ると思っていた。暑くてバテバテだったけど、ゴールは素直にうれしい」と長尾。うなだれ、ピッチにしゃがみ込むびわこイレブンとは対照的に、長尾を中心に歓喜の輪が出来た。

15分でびわこが一人退場した後はボールをつなぎ、MF10, 木口和也(3年)、長尾らが何度も最終ラインの裏を狙うが、シュートまで持ち込めなかった。もどかしい展開が続いており、桂秀樹監督も「崩しきれなかったが、1勝出来たのは何より」と安堵の表情を浮かべた。殊勲の長尾は「消極的なプレーが目立ったから、次はチーム全体でチャレンジしたい」と次戦に向けて意欲を見せた。

びわこは、数的不利の状況でも粘り強さを見せた。FW17, 松田力(3年)、DF5, 陸(3年)兄弟や、MF22, 加藤大樹(2年)を中心にカウンター攻撃に活路を見いだしたが、決定機は作ることが出来ず、最後に力尽きた。

「初出場初優勝」を目標に掲げていたが、望月聡監督は「11人対10人になったからじゃなく、力の差が出てしまった。今まで築き上げてきたものを、もっと高くしないと。負けから学ぶことは多い」と前を向いた。

(文: 読売新聞運動部 安田栄一)

第36回 総理大臣杯 全日本大学サッカートーナメント
2012年7月8日(日) 1回戦



道都大学VS筑波大学

道都大 2-5 筑波大

■7月8日(日) 15:00 KICK OFF

於: J-GREEN堺・S7フィールド

◆得点(アシスト)

道都大 16分 10 金子 顕太

筑波大 21分 5 山越 享太郎

筑波大 45分 9 赤崎 秀平 (8 上村 岬)

筑波大 46分 3 谷口 彰悟 (8 上村 岬)

筑波大 60分 9 赤崎 秀平 (7 曾我 敬紀)

筑波大 85分 20 前原 拓哉 (8 上村 岬)

道都大 90+1分 11 佐々木 航 (10 金子 顕太)

16分に先制された筑波大だが、そこからの切り替えが見事だった。

5分後の21分、DF5, 山越享太郎(4年)がPKを決めて追いつくと、前半終了間際、FW9、赤崎秀平(3年)が決めて2点目を奪った。赤崎が「前半のうちに勝ち越せたのが大きかった」と振り返るように、後半は完全に主導権を握った。

46分にMF3, 谷口彰悟(3年)、60分に赤崎、85分にFW20, 前原拓哉(3年)が次々と加点した。

今シーズン途中で、前監督の風間八宏氏がJ1川崎の監督に就任したが、築き上げた「パスサッカー」は健在だった。中盤で球を小気味よくつなぎ、相手ゴール前に次々と迫った。

中山雅雄監督が「まだまだ出来る。今日は60点くらい」と辛口だったのは、選手への期待の裏返し。2得点の赤崎は「次も勝ち、筑波サッカーを全国に知らしめたい」。20年ぶりの優勝へ、好スタートと言えそうだ。

4年ぶり出場の道都大は、FW金子顕太(3年)がカウンター攻撃から先制したまでは理想の展開。だが、押し気味に進める中で追加点が奪えないでいると、流れを手放した格好に。「人工芝に慣れてなく、パスの速さにも戸惑ったのかも。相手のパス回しも勉強になった」と田代正信監督。次回のリベンジに期待したい。

(文: 読売新聞運動部 安田栄一)

2 回戦 見どころ

■7月10日(火) 於:大阪長居スタジアム

第1試合 15:30 KICK OFF

中央大学VS大阪体育大学

昨年決勝の再現。攻守にタレントがそろった中央大は、けがの具合が心配されたMF 7、六平光成(4年)も1回戦で後半から出場して存在感を示した。「選手たちも去年の借りを返したいと思っているはず」と白須真介監督。大阪体育大は、1年生ながら1回戦で2得点したFW10、澤上竜二ら攻撃陣に迫力。坂本康博総監督が「今年は点が取れる分、守りが横着になっている」と逆に心配するほど。互いの意地とプライドがぶつかる一戦だ。(読売新聞大阪運動部 藤田 真則)

第2試合 18:00 KICK OFF

早稲田大学VS静岡大学

早稲田大の古賀聡監督は「(1回戦は)人数をかけられて攻めあぐんだ。やるべきことはやったんだが、ダイナミックなアクションに欠けた。次の相手、静岡大は守備のしっかりしたチームだから、大胆に、ダイナミックにアクションで変化して点を取っていきたいと思う」と話す。対する静岡大の難波邦雄監督は「谷尾が2点を取ってくれて…。PKは練習はしてきたんだけどね。早稲田との戦いは楽しみです。たしか5年前のインカレで5-0で負けました。ウチの粘り強い守りがどこまで通用するのか。全員がチャレンジ精神をフルに出して、と思っています」と話す。(関西学連)

■7月10日(火) 於:大阪長居第2陸上競技場

第1試合 15:30 KICK OFF

福岡大学VS阪南大学

互いに全日本大学選抜選手を含め、タレントを多く擁するチーム同士の対戦。頂点を見据えて、初戦ではまだまだ手の内を読ませない阪南大学・須佐徹太郎監督(2001年総杯優勝)と福岡大学・乾真寛監督(2009年総杯優勝)の両名監督の采配、試合運びも見どころのひとつである。多彩な攻撃で何処からでも得点できる阪南大学か、堅守速攻と高さを武器に持つ福岡大学か、タイプの異なる両チームのハイレベルな闘いに注目!!(関西学連 中野 尊志)

第2試合 18:00 KICK OFF

青山学院大学VS東海学園大学

「厳しい試合だったが、90分間で勝ち切ることが出来て良かった。次戦も攻守の切り替えを意識したパスをつなぐ攻撃的な自分たちのサッカーで勝利を掴みたい」と青山学院大の宮崎純一監督。対する東海学園大の清水コーチは「ノックアウト方式の一戦目を自分たちの人が多く関わる攻撃サッカーで勝利を掴んだことが選手にとって自信になった。次は自分たちよりも実力のあるチーム。リスペクトの気持ちを持って、思いっきりぶつかりたい」と話す。両大学ともに、パスをつなぐことで得点を狙うチームのため、組織的な守備からのボールの奪い合いと、スピードのある攻撃が見どころな試合となるだろう。

(関西学連 広報委員)

■7月10日(火) 於:キンチョウスタジアム

第1試合 15:30 KICK OFF

中京大学VS国士舘大学

逆転勝利で2年ぶりに2回戦に駒を進めた中京大。1回戦終了後朝倉吉彦監督は「1回戦の入りは、雰囲気作りも伴っておらず良くなかった。一人一人の運動量も少なかったし、しっかりやればもっとできたはず。今日のことは整理して、次のゲームに目を向けたい」と語った。若いチームでどこまでメンタルを高められるかが勝利の行方を左右しそうだ。国士舘大の細田三二監督は「点は取れるという自信があっただけに、先制されて“これはまずい”と目が覚めたのだろう。逆転してから、動きが鈍くなるなど、反省材料も多かった」と気を引き締めていた。(関学スポーツ 和氣 大輔、関西学連 荒木 茂)

第2試合 18:00 KICK OFF

関西大学VS専修大学

専修大の源平貴久監督は「人工芝に足をとられ、ボールが走らず、普通に蹴ってもボールが浮く感じでやりにくかった。次の試合(関西大対富士大)を見てどの程度のチームか見て考えたい。次は芝生でできるから大丈夫だと思う」と話した。対して関西大の島岡健太監督は「試合に締めりがなかった。専修大とは対戦経験もなく、やりたかった相手で、選手も楽しみにしている。色んなことがスムーズにやれるチームで、無駄も少ないが、目指すべきところはちゃんと目指していて、見ていて勉強になった。冷静に見ても勝てる要素は正直少ないと思うが、その中で勝負にこだわった中で勝ち切れるところへ持っていけるかどうか楽しみ。やってきたことと、やろうとしていることを専修大相手に挑戦したい」と話した。(文:サッカーライター 貞永 晃二)

■7月10日(火) 於:J-GREEN堺・メインフィールド

第1試合 15:30 KICK OFF

高知大学VS駒澤大学

「2年前は2回戦で駒澤大に敗れているので今回は勝てるように頑張りたい」と高知大の野地照樹監督は話した。対して駒澤大の秋田浩一監督は「とにかく勝てるように頑張る」と一言。ともに10回以上の出場数を誇る強豪校。注目の1戦になる。

(関西学連 幹事)

第2試合 18:00 KICK OFF

I PU・環太平洋大学VS筑波大学

中盤でいかに球を支配するかが、勝敗の分かれ目となりそう。環太平洋大の桂秀樹監督は「パスをしっかりつなぐことを徹底させたい」と話す。FW11、長尾善公(2年)、FW15、吉川爽一郎(3年)のツートップに、素早く球を預けて勝負をかけたい。筑波大もポゼッション能力の高さが持ち味。FW9、赤崎秀平(3年)は「落ち着いてボールを回せば、もっと点が取れる」と強気だ。プレスをかわし、自分たちのリズムで球を保持すれば、勝機は広がるはずだ。(読売新聞運動部 安田 栄一)